

第 2 節 南陽園事業報告

南陽園の事業運営については、平成 29 年度介護保険事業計画に定めた基本方針及び南陽園事業計画に基づき、利用者の方々が快適にお過ごしいただけるようサービスマナー向上に努め、利用者の尊厳を守り、満足度を高めるサービスの推進に努めた。

1 利用者の状況

年間平均利用率は 96.7%で、29 年度も目標値の 97.2%を下回る結果となった。特に 29 年度の年間延べ入院者数は 8,030 名、1 日平均 22.0 人で、前年度の延べ 6,184 名、1 日平均 16.9 人に比べて大幅に上回った。また長期入院や死亡退所された方を除く平均入院期間は 46.1 日で、前年度の 37.4 日より延びている。入院の要因となった病名の主な内訳は、肺炎等が約 44%、消化器系等が約 20%、循環器系等が約 13%であった。なお年間平均要介護度は予算目標 4.05 に対し、年間平均 4.22（ショートステイを加えると 4.17）となっている。

(1) 利用者の概況

区 分	28 年度	29 年度
定 員	242 名	242 名
ショートステイ定員	12 名（24 名）	12 名（24 名）
年間延利用人員	89,578 名	89,694 名
1 日平均利用人員	245.4 名	245.7 名
利 用 率	96.6%	96.7%
平 均 年 齢	88 歳 0 ヶ月	87 歳 11 ヶ月
最 高 齢 者	108 歳	104 歳
平均在籍年数	4 年 6 ヶ月	4 年 3 ヶ月
最長在籍年数	21 年 8 ヶ月	22 年 8 ヶ月
年間入所者数	43 名	63 名
年間退所者数	47 名	57 名

※ 1 ショートステイ定員の（ ）内は、空床利用の定員を示す。

2 「年間利用人員」「月平均利用人員」「利用率」は、ショートステイを含む。

(2) 日常生活動作等の状況 (年間平均)

区 分	28年度		29年度		対前年度 伸び率
	人 数 (名)	割 合 (%)	人 数 (名)	割 合 (%)	
食事介助者	110	46.9	95	40.3	0.86
排泄介助者	207	88.1	196	83.4	0.95
着脱衣介助者	210	89.4	195	83.1	0.93
寝返り介助者	142	60.5	141	60.0	0.99
移動介助者	190	80.8	174	74.2	0.92
整容介助者	197	83.7	186	79.1	0.95
入浴介助者(特殊浴)	148	63.0	144	61.5	0.98
入浴介助者(一般浴)	76	32.3	72	30.8	0.95

(3) 要介護度の状況 (年間平均)

区 分	28年度		29年度		対前年度 伸び率
	人 数 (名)	構 成 比 (%)	人 数 (名)	構 成 比 (%)	
要介護 5	115	48.7	119	50.5	1.04
要介護 4	74	31.5	63	26.8	0.85
要介護 3	32	13.4	43	18.3	1.37
要介護 2	12	5.0	8	3.5	0.70
要介護 1	3	1.4	2	0.9	0.64
平均要介護度	4.21		4.22		1.01

2 施設運営基本方針の実施状況(概要外特記事項)

(1) 地域との協働と社会貢献

29年度も地域のケアマネジャーや地域包括支援センターと連携を図りながら、緊急保護を要する要介護高齢者のショートステイへの早急な受け入れや、困難ケースの入所に向けた支援等を積極的に行った。

近隣の中学校の福祉教育の一環としての職場体験受入れや、福祉授業への講師派遣、認知症サポーター養成講座開講等、地域とともに協働しながら社会貢献を行う事ができた。

また障がい者や若者の就労支援団体からの職業訓練生を受け入れて、訓練を通じて就労を支援し、さらに就職希望者に清掃契約職員として4名採用した。

ボランティアの活動状況は、長年続いている普連土学園・聖心女子学院等の生徒訪問の他にも、囲碁クラブや折り紙の会等の各クラブ活動、各種セラピー、

喫茶、園芸、演奏会、傾聴など多岐に亘り、延べ 3,246 名の方々にご協力をいただきました。

(2) 利用者中心のサービスの提供

ご家族の医療ニーズを確認しつつ、浴風会病院及び他医療機関との連携を図り、利用者の重度化に対応した。

感染症予防のためインフルエンザの予防接種を 202 名に実施し、合わせて標準予防策の励行、各階の清掃・消毒を日々実施したが、しかし 4 階と 5 階でノロウイルス感染者計 27 名、インフルエンザ感染者計 12 名が発生した。

肺炎球菌ワクチン予防接種については、利用者ご家族のご希望と同意のもと、8 名に実施した。

緊急やむを得ない身体拘束者については 3 月末で 3 名であり、今後もゼロを目標とし廃止に向けて取り組んでいく。

昨年度に引き続き、専任の介護支援専門員 1 名を配属（2 階）してケアマネジメント体制の充実を図った。

(3) 専門性を活かした職場づくり

法人研修企画部による内部研修（新規採用及び登用者の新人職員研修・階層別研修・全体研修等）や、三特養合同新人職員研修・フォローアップ研修を年 3 回、サブリーダーを中心に月 1 回開催する施設内研修、及び外部研修への参加を計画的に進めて、職員のスキルアップに努めた。

なお内部研修への参加者は年間 735 名、外部研修への参加者は年間 43 名であった。

アクティブ福祉 in 東京'2017 では、前年度の機能訓練委員会より、『機械浴室へのリフト導入による職員の身体的負担と意識の変化～「よっこいしょ」の声の聞こえない施設を目指して～』を発表した。さらに法人職員実践・研究発表会では、褥瘡予防対策委員会より、『褥瘡予防に向けた多職種とのつながり～評価方法の見直しと情報共有～』を発表した。

キャリア段位制度による職業能力評価を実施し、29 年度は 2 名がレベル認定を取得した。さらにアセッサー（レベル認定評価者）を新たに 3 名養成し、更なるレベル認定取得を目指すところである。

また、東京都社会福祉協議会高齢者福祉施設協議会職員研修委員会に委員 1

名、幹事 4 名を、杉並区介護認定審査会に委員 1 名をそれぞれ派遣した。

(4) 安定的経営基盤の確保

法人本部との連携および契約職員採用代行サービスを活用した職員雇用の努力を行い、看護師については派遣職員を採用しながら年間を通して人員を確保することが出来たが、ケアワーカーについては 29 年度も契約職員の採用が振るわず、派遣職員の採用に委ねる事になったが、それでもなお年間通して目標人員を充足できなかった。30 年度も契約職員の雇用促進を主に、引き続き職員の安定確保に努めたい。

29 年度は、冷温蔵配膳車の老朽化に伴う更新（計 7 台）、5 階浴室の個浴槽をリフト付浴槽への改修に加えて、業務用パソコンの経年劣化に伴う一斉更新（計 42 台）を実施した。

3 利用者へのサービスについて

サービスの提供に当たっては、利用者・ご家族の意向を伺い、施設サービス計画書を策定し、同意を得た上で介護サービスを提供した。

食事は、管理栄養士を中心に栄養マネジメントを適切に実施する他、食事懇談会や食事委員会、管理栄養士のフロアラウンド等により、利用者の嗜好を献立に反映させ、喜ばれる食事の提供に努めた。更に食事を楽しみを持っていただけるよう、選択食・行事食の充実と環境作りに努め、「目の前で選べる選択食」等の新たな企画したり、ポスターやBGM等での雰囲気作りを行った。

嚥下機能が低下した利用者には、訪問歯科医による頸部聴診・嚥下内視鏡による評価に基づく食形態・介助方法による食事提供、多職種による食事場面観察及び多職種会議の開催による経口摂取維持への取り組みを継続した。

入浴は、利用者の身体状況を観察しながら、安全で快適な入浴を週 2 回実施した。さらに 5 階浴室の個浴槽をリフト付き個浴槽に改修し、各階の個浴槽は全てリフト付きとなった。その他、排泄、着脱、移乗、体位変換等の介護も、施設サービス計画に基づいて適正に行った。

健康管理は、ケアワーカーと看護師が連携し日常の健康状態を把握し、状態変化時の早期発見・早期治療に努めているが、29 年度の入院件数は 165 件で、昨年より 31 件増加した。

機能訓練は、利用者が生活意欲を持って日々の生活を過ごせるよう、機能訓練指導員による歩行訓練、関節可動域訓練等の他、ケアワーカーと協働し日常生活を通じて機能維持を図る動作訓練を、個別機能訓練計画に基づいて実施した。

サービスマナー向上については、身体拘束廃止委員会の中で話し合いの場を持ち、今年度も「虐待の芽チェックリスト」を用いて職員一人一人が自己点検を行い、フロアごとの目標を明確にし、サービスマナー等の向上に努めた。

その他、セラピストの協力を得てアートセラピー、音楽リハビリ、園芸療法、アニマルセラピーや、各種クラブ活動に取り組んだ。また利用者の生活の活性化を図るべく、外出支援に力を入れた。10月4日のバスハイクには、利用者13名、ご家族7名が参加され、海ほたるにて昼食や東京湾の展望を満喫された。

4 施設の運営・管理について

(1) 苦情対応について

ショートステイを含むご家族等からの苦情は9件あり、各ケースとも誠意を持って迅速に対処した。また玄関ホールに苦情報告ファイルを常設して、情報公開を行った。

なお、苦情の内容は（別表2）のとおりである。

(2) 家族会の開催及び家族との連携について

平成29年3月26日に開催した全体家族会では、園長より29年度事業計画及び介護職員処遇改善加算の改定等の説明を行い、会終了後には改定にともなう契約更新手続きを行った。

秋のフロア家族懇談会を、各階毎に、10月29日、11月18日及び19日の各休日に計4回開催した。どのゾーンもご家族と職員の話が弾み、交流を図ることができた。

また、日頃から状態変化時のこまめな電話連絡や、ご家族面会時に状況報告を行い、さらに毎月のフロア新聞の発行や文書の送付等により、ご家族との連携強化に努めた。

(3) 業務の見直しと改善について

腰痛予防を主とした業務負担軽減を目指して、昨年度2階・3階・4階の特殊浴室に設置した天井走行式移乗用リフトの更なる安全な運用を図るため、引き

続き機能訓練委員会による運用マニュアルの作成およびフォローアップ研修を実施した。

(4) 職員の健康管理及び労働災害の防止について

職員定期健康診断を4月に実施し127名、夜勤業務に携わる職員は、2回目を10月に実施し79名が受診した。また、腰痛検診を年2回実施し、5月に60名、11月に53名が受診した。健診結果報告書は各自に渡し、所見のあった職員は再診を行うように促した。

『労働安全衛生法の一部を改正する法律』等に基づくストレスチェックを正職員および契約職員に実施し、120名が受診した。さらにインフルエンザの予防接種を123名の職員に対し実施した。

また、業務災害3件および通勤災害1件の申し出があり、労働基準監督署に療養給付請求書等を提出した。なお、妊娠等による業務軽減は2件であった。

(5) 防災予防と訓練について

防災対策として毎月の訓練並びに法人による救命講習に参加し、防災意識の向上及び安全対策に努めた。

5 ショートステイの受け入れについて

ショートステイ年間延利用者数は11,934名、1日平均32.7名で、28年度の9,888名、1日平均27.1名より大幅に増え、ついに延べ利用者数が1万人を超えた。

介護者の疾病や不測の事態および虐待等により、緊急に保護を要する要介護高齢者の緊急ショートステイの受け入れを、地域の社会資源としての大きな役割と捉え、近隣居宅介護支援事業所ケアマネジャーや地域包括支援センターと連携し、可能な限り受け入れるよう努めた。

29年度の緊急受入件数は21件、延利用者数は390名であった。また送迎サービスについては、ご要望にできるだけ応じるべく努力し、29年度は延べ629名で、昨年度延べ426名の約1.5倍応じる事ができた。

6 南陽園事業計画の実施状況について

全体目標、各委員会・会議目標、各職域目標を定め、サービス向上に向けて目標達成に努めた。

(1) 全体目標の取り組み実施状況

8月から10月にかけて、外部講師によるサービスマナー悉皆研修を開催し、119名が参加した。更に身体拘束廃止委員会が中心となり『虐待の芽チェックリスト』による自己点検を年2回行い、集計結果を基に各フロアでマナー向上に向けての取り組み目標を定めた。

ショートステイ利用者の個別機能訓練については、訓練開始前に機能訓練指導員がご自宅を訪問し、その方のニーズや家庭環境を考慮して計画書を作成したうえ、在宅生活が継続できるような支援を多職種が連携して行った。

(2) 各会議・委員会目標の取り組み実施状況

【リーダー会議】

委員会のメンバーにサブリーダーが新たに加わる事で、各委員会内での意見交換および提案が増えて活発化した。またリーダー会議で得た情報は、全フロアで周知するよう徹底した事で、職員各々の情報共有や業務改善が推進し、さらに職員の定着にもつながった。

【サブリーダー会議】

新入職員の育成では、育成用のチェックシートを活用した事で適切に指導でき、新入職員の定着につながった。また職員研修でも、研修後アンケートで高評価を得ている事からも、ニーズに応えた研修を企画実施できて、職員のスキルアップに貢献できた。

ヒヤリハットや事故報告に関しては、毎月パソコンにデータ入力したうえ集計分析の実施と、更にゾーンノートの活用やゾーン会議等で振り返りを行う事で、事故予防策の周知徹底を図る事ができた。

【褥瘡予防対策委員会】

褥瘡予防に向けた多職種連携は、引き続き看護師を主体に機能訓練指導員や管理栄養士等と十分な連携を行うことができた。29年度より褥瘡の処置にケアワーカーも立ち会う事で、ケアワーカーの褥瘡改善に対する意識が向上した。またケアワーカー全員が褥瘡状態を視覚的に確認できるよう、褥瘡処置状況を定期的に写真撮影のうえ、画像情報で共有した。

スキンケアに関しては、日頃より利用者個々の排泄パターンを把握したうえ排泄介助を実施しているが、なお情報共有できていれば防げたスキントラブル

もあり、より確実な情報共有のあり方を検討したい。

なお3月末時点で6名の褥瘡発症者があるが、全員改善傾向にある。

【身体拘束廃止委員会】

身体拘束の早期解除に向けて、委員会および隔週毎に開催するカンファレンスにて検討を重ねた。実際にご家族の強い要望で4点柵を使用していたが、日々の記録を根拠にカンファレンスを実施した結果、拘束解除の理解を得た成果も得た。なお3月末の時点での身体拘束者は、ミトンをされている方3名である。

『虐待の芽チェックリスト』による自己点検を、記名式で年2回全職員対象に行い、その集計結果を基に、フロア毎で目標及び取り組みを定めた。更に委員会にて啓発ポスターを作成のうえ、指導層から発信・浸透させていくことで、一定の成果を上げる事ができた。

【ケアプラン委員会】

毎月各フロアより提示した施設サービス計画に基づいて事例検討する事で、各介護支援専門員の視点や考え方が把握でき、情報共有と共通認識を持つことができた。今後もサービス内容の質の向上を目指して、施設サービス計画の検証と、フロア間のケアマネジメントの標準化に継続して取り組みたい。

【記録委員会】

記録マニュアルを整備したことで、記録時の表現のあり方への理解が深まり、新人職員指導でも役立てる事ができたが、不適切な表現を用いた記録も散見された。更に適切な文章記録表現ができるように、今後はサービスマナー委員会にて検討を引き継ぎ、マニュアルの更新に取り組みたい。

【口腔ケア委員会】

経口維持の評価で、食事摂取状況や食事環境・形態に変化があった利用者は、多職種会議にて十分に評価できたが、変化が少なかった利用者への評価は十分にはできなかった。

また年度当初に『口腔ケアアセスメントシート』を見直した事で、アセスメント内容を予め確認する職員が増加したが、『追記用シート』は十分活用されておらず、次年度の課題としたい。

【食事委員会】

選択食の機会をより楽しんでいただけるように、事前にポスターでの告知や

選択食の話題をしたり、当日は雰囲気の良いBGMを流したりと盛り上げる努力をした。その甲斐あって利用者・ご家族から好評を得る事ができた。今後はゼリー食等で食事を選択できない利用者でも、食事の楽しみを提供できる工夫を考えたい。

また給食委託業者との協議を定期的に行い、新しいメニューや、『目の前で選べる選択食』（当日選択食）等の企画を考案し、利用者からも好評であった。

【機能訓練委員会】

毎月チェックリストを用いた車いすやクッションの点検、および利用者のシーティング状況の把握を徹底する事で、褥瘡・拘縮の発症を抑える事ができた。

浴室に設置したリフトの使用マニュアルを作成し浴室に掲示した事で、どの職員でも安全に分かり易く使用できるよう配慮し、更に全介護職員を対象に使用方法のフォローアップ研修を実施した。今後も定期的に研修を行い、全介護職員が継続して安全に使用できるよう配慮したい。

褥瘡予防対策委員会と連携して当委員会からも、褥瘡予防の方策として座り直し後の衣類の皺伸ばしや背抜き、シーツの皺伸ばし等の徹底を喚起した。

【アクティビティ委員会】

『ボランティアマニュアル』を整備し、マニュアルの内容が職員に普及した事で、結果的にボランティアの方々とより良好な関係を築くことができた。

29年度新たに「クラブ活動等の各階交流」に取り組んだが、各階職員間との連携が至らず、充実した交流ができなかったため、今後の課題としたい。

ホームページの更新作業は、委員同士が連携しながら遅滞なく行う事にしてきたが、つい遅れる事もあり、今後は遅滞なく更新するように努めたい。

【実習担当者会議】

各職員が迷わず実習生の指導に取り組めるように『実習マニュアル』をケアステーション内の見やすい位置に掲示して、職員が常に確認できるようにしたり、また進捗状況を共有できるように、実習担当者が連絡ノートに、進捗状況や特記事項をその都度記載するよう配慮した事で、順調に実習生を指導する事ができた。

(3) 各職域目標の取り組み実施状況

【事務室】

昨年は、新メンバーの配属もあり、より互いに連携しながら電話や窓口の対応を丁寧かつ迅速に行うことを年間の重点目標に掲げたが、実際に連携しながら電話や窓口対応をほぼ的確に行ってことで目標は達成できた。

コスト削減については意識をもって取り組むことができたが、整理整頓については不十分だったことも多々あり、引き続き目標に掲げる。

勤務時間内の私語については、各々自覚して取り組んでおり、以前より相当改善できた。今後も引き続き継続していく。

【栄養室】

昼食時に巡回する事で利用者の状態把握に努めた。また栄養ケアマネジメントに基づき、多職種協働でリスクの高い方には、なるべく適正な状態に近づけるよう食事提供を行った。

委託業者と連携し、毎回趣向を変えた選択食を実施した。食事委員の協力もあり、利用者を楽しんでいただける食事の提供につながられたが、当日選択食については、今後も継続していくのか検討する必要がある。

【医務室】

昼食時の巡回を中心に、利用者の食べるスピードやむせ込み、顔色や意欲、いつもと違う変化はないか等の状態把握に努めた。

皮膚トラブル予防のため、介護記録（夜勤用・日中用）や口頭で密に情報共有する事を徹底し改善できた。また褥瘡処置を介護職員と行うことで、介護職員の褥瘡に対する意識が高まり、結果的に早期治療にもつながった。

感染症の時期は感染予防対策を行い感染防止に努めたが、2フロアでインフルエンザ、ノロウイルスに罹患した利用者が出てしまった。

なお、29年度は7名の看取り介護を支援した。

【機能訓練室】

フロア職員や他職種との情報共有を継続し、褥瘡発生の予防と発生者の早期改善に取り組み、年度内の新規発生者・再発者は昨年と比較し減少した。除圧マットや車椅子、クッション等の物品管理はフロア担当制や表を用いた管理、居室担当による車椅子チェックにより徹底されており、より有効で迅速な物品

の変更が実施できた。反面、汚染時の交換時に適切な使用ができていないケースがあった。

今年度もフロア担当を2名にしたことで計画の立案・評価の精査ができ、迅速に利用者の状態に応じた環境調整や訓練が実施できた。評価においては来年度に向け、三特養の機能訓練指導員で新たな評価表の検討と作成を行った。また日常生活に楽しみや意欲を持っていただくという点においても、作業活動の種類や内容を提案することで、利用者が自ら選択できる環境を作ることができた。来年度は三特養合同での作品展示会を企画しており、さらに利用者に楽しみや意欲を持っていただけるような取り組みを通して、地域との交流にもつながっていききたい。

利用者とのコミュニケーションを図りながら、評価に基づいた機能訓練を実施できた。計画書の更新や目標プログラムの設定に関して、長期的かつ段階的に計画出来るように他職種と情報を共有しながら実施していく。

【地域連携】

ボランティアの方と日頃からコミュニケーションを心がけて、各フロアでのボランティア活動が円滑に進みようにサポートした。30年度は、散歩ボランティアの増員を目指したい。

実習マニュアルの見直しを三特養の地域連携担当者会議で行い、実習担当者へマニュアルの活用を促した事により、実習生への指導内容が向上し、その甲斐あって浴風会への就職を希望する実習生もあった。

その他、三特養の新人研修に講師として参画や、利用者の病院送迎や入浴介助・食事介助等のケアワーカーへの支援も適宜行った。

【相談員】

日頃より利用者ご家族や後見人等との意思疎通を図り、他職種とも協働しサービスの向上に努めた。今年度は、利用者が最後まで安心して施設でお過ごしいただけることを目標とし、7名の利用者を施設でお看取りした。

さらに、法人内悉皆研修をはじめ、認知症研修、外部へのケアマネ更新研修、サービスマナー研修等、各種研修や勉強会への参加、併せて介護認定審査会、事業所情報交換会等にも参加し、情報収集や資質向上に努めた。

また、サービス担当者会議への参加をはじめとして、杉並区や地域包括支援

センター、居宅介護支援事業所ケアマネジャー等と連携を図り、積極的に緊急ショートステイの受入等を推進した。その結果、年間で21件、延べ390名の緊急ショートステイを受け入れるとともに、新たな居宅介護支援事業所やケアマネジャーとの関係構築にも繋がった。ショートステイについては、緊急ショートステイをはじめ、積極的な新規利用者の受け入れが実を結び、年間新規契約件数140件、年間延べ利用者11,934名と昨年度を大きく上回る受け入れを行なった。しかしながら、新規利用者を含めた利用者の虚弱化等によるご入院者数の増加等から、年間利用率は96.7%と目標には届かなかった。

【2 階】

29年度はレクリエーション企画係を設けた甲斐あって、計画的にレクリエーションを実施できた。レクリエーションの内容も概ね好評であったが、対象が身体動作能力のある利用者に偏ってしまったので、今後は身体動作能力のない利用者でも楽しんでいただけるレクリエーションを計画したい。

外出支援の実施状況は、サンシャイン水族館や両国等へ足を延ばす企画はできたが、全体的に外出頻度が少なかったので、今後は外出支援の頻度を増やして多くの利用者が外出できるようにしたい。

【3 階】

29年度は「何故そうするのか?」「何故そうなの?」「こうしてみても?」等、考察力を働かせた常に利用者の思いを読み取ったケアを実施する目標を立て実践する事で、利用者に寄り添ったケアが概ねできたが、それでもなかなか読み切れなかった事例もあった。また他職種と「報告・連絡・相談」を速やかに行う事で、より利用者のニーズに沿ったケアを目指したが、それでも職員全体への周知に時間が経過してしまった事例もしまう事があり、いずれも更なる向上を目指したい。

【4 階】

外出の機会を増やすべく、野球観戦、墓参り、買い物、寿司屋での外食、ご自宅への一時帰宅等、利用者が希望される場所への外出支援多く企画し、参加された利用者各々からも好評であった。

フロア内の環境を整備して、フロアの中央部に利用者のご家族と一緒に過ごせるスペースを設けたり、秋ゾーンに利用者がくつろげるスペースを設けたり

して、フロア内で気軽に休めるスペースを増やした。更に浴室の環境も整備して、よりくつろいで入浴できる環境も作った。

【5 階】

日課シートを活用して、施設サービス計画に位置付けられた個別ケアの推進を目指した。具体的には、サービス提供の漏れが生じないように、日課シートに提供すべきサービス内容を記載してリビングに配置し、実施後はチェックを付けて、記録に反映するようにした。

利用者により『食』を楽しんでいただける機会を設けるべく、10月は月見会にて月見団子を作り、12月は年忘れ会にてポップコーン作り、2月はチョコレートフォンデュ会をそれぞれ企画して、利用者と共におやつ作りを行いながら、舌鼓を楽しむ事ができた。

7 諸会議の実施状況について

サービス経営会議	48回	身体拘束廃止委員会	12回
ケアリーダー会議	11回	褥瘡予防対策委員会	12回
ケアサブリーダー会議	12回	ケアプラン委員会	14回
口腔ケア委員会	12回	記録委員会	12回
事故防止対策委員会	12回	アクティビティ委員会	12回
安全衛生委員会	12回	実習担当者会議	11回
感染防止対策委員会	14回	食事委員会	12回
喀痰吸引等安全委員会	12回	食事懇談会	12回
防災管理委員会	12回	機能訓練委員会	12回

8 主要行事等の実施状況について

平成29年度に実施したクラブ活動及び主要行事等は次のとおりである。

(1) クラブ活動実施及び参加状況

音楽リハビリ(水曜日・2F～4F、5F)	83回	(延 4,019名)
コーヒー喫茶(日・月・火・金)	394回	(延 2,021名)
書道(火・金曜日)	32回	(延 282名)
絵画(日・月曜日)	10回	(延 54名)

手話ダンス(日曜日等)	6回	(延 224名)
フラワーアレンジメント(火・土曜日)	23回	(延 320名)
パソコン教室(木曜日)	30回	(延 132名)
アートセラピー(不定期)	11回	(延 79名)
アニマルセラピー(月1回)	6回	(延 108名)
新アニマルセラピー(隔月)	4回	(延 94名)
園芸療法(月1回)	11回	(延 159名)
松風園大正琴クラブ(偶数月)	4回	(延 256名)
ピアノ演奏(随時)	12回	(延 513名)
アコーディオン演奏(木曜日)	23回	(延 649名)
ギター演奏(金曜日・随時)	66回	(延 1,848名)
ビデオ上映会(月1回)	10回	(延 169名)
囲碁クラブ(第1、第3火曜日)	19回	(延 21名)
折り紙の会(月1回月曜日)	11回	(延 90名)
将棋の会(日・木・土曜日)	102回	(延 102名)
俳句会(月2回)	22回	(延 84名)

計 延 10,879名

(2) 主要行事実施状況 (別表3) のとおり実施した。

9 寄付金等の状況について

平成29年度における寄付金は、利用者ご自身、ご家族およびご遺族の方より現金にて10件、1,000,000円をいただくとともに、今年度も中村屋様より水羊羹等をいただいた。

なお、南陽園夏祭りの際に開店するバザーに29年度もご家族や地域の多くの方々から物品をご寄付いただいている。

引き続き開店を心待ちにしている方が増えており、夏祭り以外にも法人のあんしん介護フェアに出店し、売上金はいずれも『平成29年7月九州北部豪雨』被災地への義援金とした。